日本史 日本史基礎演習／摂関期の政治と社会

点　ステップR　1/2

次の(　①　)～(　⑰　)にあてはまる語句を下の語群から選んで答えよ。

(1) 842年におこった、藤原氏による他氏排斥事件である(　①　)では、三筆の１人でもある(　②　)が伊豆へ、伴健岑は隠岐へ配流となった。こののち、道康親王(順子の子、のちの文徳天皇)が皇太子となった。

(2) 866年の(　③　)で、伴善男が流罪となった。この事件の後、藤原冬嗣の子の(　④　)は正式に清和天皇の摂政に就任した。天皇の外祖父である彼は、すでに858年には実質上、臣下で初めての摂政の任をつとめはじめていた。

(3) 884年、(　⑤　)即位にあたって、太政大臣(　⑥　)を実質上の関白に任命し、彼を優遇した。彼は887年に宇多天皇から関白の詔をうけたが、この時(　⑦　)と呼ばれる示威事件をおこし、詔の起草者の(　⑧　)を咎めた。

(4) 藤原氏を外戚としない宇多天皇は、有名な学者である(　⑨　)を右大臣にして、藤原氏と対抗させようとした。遣唐使廃止の建議がなされたのは、この頃のことである。以後、文化の国風化が進んでいった。

(5) 続く(　⑩　)天皇とその後の(　⑪　)天皇も親政を行った。平安中期のこの時代は、後世、天皇政治の理想とされた。二人の天皇の年号をとって、(　⑫　)と呼ぶ。

(6) 969年(　⑬　)がおこり、(　⑭　)が大宰府に左遷させられ、藤原北家の勢力は不動のものとなった。摂関は常置となり、北家は摂政・関白をだす家柄である(　⑮　)として位置付けられた。

(7) 10世紀後半から11世紀にかけての政治は(　⑯　)と呼ばれ、摂政や関白が天皇の後見役をつとめた。後見役の資格としては、天皇の(　⑰　)、つまり母方の親戚であることが重要視された。当時は招婿婚が普通だったからである。

語群

藤原基経	安和の変	延喜・天暦の治	阿衡事件	村上
橘逸勢	摂関政治	醍醐	橘広相	菅原道真
承和の変	外戚	光孝天皇	摂関家	応天門の変
源高明	藤原良房			

①	
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	
⑪	
⑫	
⑬	
⑭	
⑮	
⑯	
⑰	